

## [ 考察 ]

### < 実態把握 >

#### 診断的評価の活用により接続語の役割に重点を置く

- ・「内容の中心や段落の要点の読み取り」、「文章と文章の関係と接続語の働きの理解」を診断する問題を新たに作成し実施した結果、文章全体から接続語を選び出す問題の正答率が低い傾向にあった。また、接続語の役割の理解が不十分な児童は、内容の中心や段落の要点をとらえる設問に対して正答できていない傾向が見られた。これらの診断的評価を基に単元構成をすることにした。

### < 教材研究 >

#### 「読むこと」の領域に言葉の役割を学ぶ過程を入れる

- ・診断的評価の結果から『接続語の果たしている役割に着目しながら、内容を読み取る学習を繰り返し位置付ける』『読むこと』で学習した接続語、指示語の果たす役割を「書くこと」の中で活用することで、その定着をより確かなものとする』を視点として単元構成をした。
- ・A児は、接続語の果たす役割の理解が不十分なため、微生物の2つの特徴のうち1つの意味しかとらえることができなかった。しかし、第3時で、「また」で並列して理由を述べ、「ですから」でまとめていることに気付くことによって、接続語が内容を読み取る上で重要な役割を果たしているという意識をもてた。

その結果、後の学習では「接続語」を意識しながら意欲的に内容を読み取っている姿が見られた。全体の傾向としても「読むこと」の学習では、多くの児童がおおむね定着が図られているとの結果を得ることができた。これらのことを通して、接続語に着目しながら内容を読み取る学習を繰り返していくことで「指示語や接続語の理解」の定着を図ることができ、「読むこと」の領域に言葉の役割を学ぶ過程を入れることは、有効であったと考えられる。

- ・「読むこと」の学習において理解が図られている児童であっても、「書くこと」で接続語を選択することに困難を感じている姿が見られた。しかし、文章を再構成していく時「読むこと」の学習を振り返ったり、書いたものを読み返したりする場面を繰り返すことで、多くの児童がおおむね定着が図られているとの結果を得ることができた。

### < 指導と評価の一体化 >

#### 主たる評価規準から具体的な児童の言語活動の姿を想定する

- ・学習過程に位置付けた主たる評価規準から『学習した接続語を使ったり、辞典などを使ったりしながら文章を正しく書き直すことができたら学習内容の定着がおおむね図られている』『接続語を効果的に使い、文頭、文末等を工夫しながら文章を再構成することができたら学習内容の定着が図られている』など具体的な児童の姿を想定した。これらのことを通して学習状況を短時間で評価することが可能になり、1単位時間の中で多くの児童にかかわることができた。また、通常の学習では時間内にねらいを達成することが困難な児童も含めて、より多くの児童が時間内にねらいを達成することができた。

#### 個別支援カードを活用する

- ・学習過程に位置付けた基礎的・基本的な内容を、児童一人一人を見取る視点として、毎時

間形式的に評価し、その評価を次時の支援計画に活用した。それとともに、中心的に支援する児童を決めるように心懸け、授業に臨むようにした。このことにより、1単位時間の授業の中で一人当たりの支援に十分な時間を確保しながら、前時までの学習で補充的な指導が必要な児童や、発展的なねらいをもたせる必要のある児童に対して計画的に支援を行うことができ、意欲的に学習を進めさせることができた。これらのことから個別支援カードを活用し、児童へ支援を行ったことは有効であったと考えられる。

#### コース別に設定した少人数学習集団の導入

- ・第1次の学習内容の定着が図られている児童、おおむね図られている児童については自分に合った学習方法を選択できたため、意欲的に学習を進めていくことができた。
- ・自己評価カードを基に学習コースを選ばせたが、ほぼ指導者の評価に近いグループに分けることができた。小学校4年の児童の発達段階から考えても観点を決め自己評価し、自分に合った学び方を選ぶことは十分に可能であると考えられる。
- ・第1次の学習内容の定着が図られている児童、おおむね図られている児童のために大百科に必要な参考資料を作成した。作成に当たっては、児童の実態に合わせ接続語を書き加えられるように接続語を削除したり、用語を分かりやすく書き換えたりすることで、意欲的に学習が進められるようにした。また、定着が図られている児童用には長文で説明している資料を、定着がおおむね図られている児童用には短文で説明している資料を、それぞれ児童の学習状況に合わせて難易度を付け満足感が味わえるように工夫した。このことにより、児童が「読むこと」で学習した接続語を活用しながら「書くこと」のねらいを達成させるために意欲的に取り組み、学習内容の定着を図ることができた。
- ・第1次の学習内容の定着が図られている児童は、長文の参考資料から自分の調べていきたい課題を選び、説明の順番を入れ替えたり、自分の考えを織り交ぜて文頭や文末を再構成したりするなど、より高いねらいをもつことで最後まで意欲的に取り組むことができた。
- ・第1次の学習内容の定着が図られていない児童には、短文の資料であってもそれらに段階をつくり、一番やさしい資料から取り寄せた方がより効果的であったと考えられる。

#### 個に応じた学習の進め方の指導の必要性

- ・多くの既習事項で定着が図られていない児童4名は、共に第2次の「書くこと」の総括的な評価でも学習状況の向上が見られなかった。これは、第1次の「読むこと」の学習で定着がおおむね図られているように見えても、第2次の「書くこと」では適切な指示語、接続語を選択することができなかつたり、段落に区切って書くことができなかつたりなど、学習したことをすぐに活用できないためであると考えられる。その後、多くの補充的な指導を受けながら学習を進めたが、「書くこと」の定着を図ることができなかつた。既習事項の定着が図られていない児童には、「読むこと」から「書くこと」へ他の児童と同様の学習の流れで進めるのではなく、同じ資料を使い教師と一緒に読み進めながら書き直していくことや、学習の進め方を一緒に確認していくことなど、段階的な指導が必要であったと考えられる。

注：『体を守る仕組み』の内容を読み取る学習を「読むこと」と記す

『これが「わたし」です』の調べたことを文章に書き表す学習を「書くこと」と記す